

岩手労働局発表
平成27年11月13日

【照会先】
岩手労働局労働基準部健康安全課
課長 安倍 賢
主任安全専門官 村井 雄亮
(電話) 019-604-3007

平成27年(10月まで)の労働災害発生状況(速報値)を公表します。

～平成27年の労働災害による死傷者数は、前年同期比131人(11.7%)減少～
～同死亡者数は、前年同期比7人減少～

岩手労働局(局長 ^{くごたに としゆき}久古谷 敏行)は、平成27年(1～10月)の県内の労働災害による死傷者数(休業4日以上)及び死亡者数の状況を取りまとめました。

平成27年10月までの死傷者数(速報値)は984人で、前年同期比で131人(11.7%)の減少となっています。また、死亡者数(速報値)は16人となっており、前年同期比で7人の減少となっています。

平成27年10月までの労働災害は前年より減少したところですが、例年、冬季に入ると積雪、凍結による転倒災害、車両のスリップによる交通労働災害が多発しており、労働災害が増加に転じる可能性が懸念されることから、岩手労働局では、「平成27年度いわて年末年始無災害運動」を展開し、冬季における労働災害防止を強力に推進することとしています。(別添リーフレット)

また、平成27年12月21日(月)には、大船渡市、陸前高田市において、建設業労働災害防止協会岩手県支部長(岩手県建設業協会会長)、岩手県県土整備部長、岩手労働局長の三者による、建設工事現場への安全衛生パトロールを実施する予定です。

全業種(再掲)及び業種別等の発生状況は以下のとおりです。

1 死傷者数(休業4日以上) 【表1】

(1) 全業種合計

全業種合計の死傷者数は984人で、前年同期比で131人(11.7%)の減少となっています。

(2) 業種別の状況

前年同期比で増加した業種は、接客娯楽業 55 人(前年同期比 + 11 人、25.0%)、貨物取扱業 2 人(同 + 1 人、100%)となっています。

前年同期比で減少した業種は、商業 108 人(前年同期比 - 25 人、- 18.8%)、保健衛生業 59 人(同 - 23 人、- 28.0%)、建設業 212 人(同 - 17 人、- 7.4%)、製造業 229 人(同 - 15 人、- 6.1%)、農林業 44 人(同 - 13 人、- 22.8%)、通信業 19 人(同 - 7 人、- 26.9%)、運輸交通業 121 人(同 - 7 人、- 5.5%)、鉱業 4 人(同 - 1 人、- 20.0%)となっています。

(3) 事故の型別状況 【グラフ1】

全業種において、最も多い事故の型は「転倒」によるもので 223 人(22.7%)となっています。次いで、「墜落・転落」によるものが 204 人(20.7%)、「はさまれ、巻き込まれ」136 人(13.8%)の順となっています。

また、前年同期比で増加した事故の型は、「はさまれ・巻き込まれ」136 人(+ 8 人)、減少した事故の型は、「動作の反動・無理な動作」56 人(- 45 人)、「交通事故(道路)」57 人(- 28 人)、「切れ・こすれ」87 人(- 22 人)、「墜落・転落」204 人(- 13 人)、「転倒」223 人(- 11 人)となっています。

2 死亡者数 【表1】・【表2】・【表3】

(1) 全業種合計

全業種合計の死亡者数は 16 人で、前年同期比で 7 人減少となっています。

(2) 業種別の状況

「建設業」が 6 人と最も多く、「製造業」、「運輸交通業」及び「林業」が各 2 人、「商業」で 1 人などとなっています。

前年同期比では、「商業」で 3 人、「建設業」及び「運輸交通業」で 2 人減少した一方、「林業」で 2 人増加しています。

(3) 事故の型別状況

「交通事故」及び「はさまれ、巻き込まれ」が各 3 人、「墜落、転落」、「崩壊、倒壊」が各 2 人、「転倒」、「飛来、落下」、「激突され」及び「有害物等との接触」が各 1 人となっています。

前年同期比では、「墜落、転落」で 6 人、「交通事故」及び「激突され」で各 2 人、「激突」及び「感電」で各 1 人減少し、「転倒」、「崩壊、倒壊」及び「有害物等との接触」で各 1 人増加しています。

【表1】

平成27年1～10月

労働災害発生状況（休業4日以上之死傷者数）

岩手労働局

業種		岩手局				盛岡署	宮古署	釜石署	花巻署	一関署	大船渡署	二戸署	
		27年	26年	増減数	増減率								
製造業	食料品	23 (1)	24	-1	-4.2%		6	6	1		7	3	
	上記以外の食料品	76 (1)	62 (2)	14	22.6%	34		1	17	13	6	5	
	繊維・衣服その他繊維製品	6	10	-4	-40.0%	2	1		2			1	
	木材・木製品、家具・装備品	32	36 (1)	-4	-11.1%	7	7	3	5	2	1	7	
	パルプ・紙、印刷・製本	3	7	-4	-57.1%				2	1			
	化学工業	10	11	-1	-9.1%	1		1	5	2	1		
	窯業土石製品	11	16	-5	-31.3%		1		2	5	1	2	
	鉄鋼業、非鉄金属	3	10	-7	-70.0%			1	2				
	金属製品	19	23	-4	-17.4%	2		2	9	4	1	1	
	一般機械器具	12	11 (1)	1	9.1%	3			8			1	
	電気機械器具	11	8	3	37.5%	2	2	3	4				
	輸送用機械製造	5	6	-1	-16.7%				4			1	
	電気・ガス	0	0	0									
	その他の製造業	18	20	-2	-10.0%	6	1		6	1		4	
小計	229 (2)	244 (4)	-15	-6.1%	57	18	17	67	28	17	25		
鉱業	4	5	-1	-20.0%				1	1	1	1		
建設業	土木工事	67 (4)	76 (4)	-9	-11.8%	10	12	6	13	8	8	10	
	建築工事	鉄骨・鉄筋家屋	21 (3)	22 (5)	-1	-4.5%	6	2	3	2	2	4	2
		木造家屋	49 (2)	57	-8	-14.0%	14	2	2	11	7	7	6
		その他の建築工事	51 (2)	36 (2)	15	41.7%	26	3		5	8	5	4
	その他の建設	24 (1)	38 (11)	-14	-36.8%	8	2		5	3	2	4	
小計	212 (12)	229 (22)	-17	-7.4%	64	21	11	36	28	26	26		
運輸交通業	道路貨物運送業	110 (9)	106 (6)	4	3.8%	46	3	5	29	16	6	5	
	その他の運輸交通業	11 (1)	22	-11	-50.0%	6			2	2	1		
貨物取扱	2	1	1	100.0%	1		1						
農林業	農業	1	7 (1)	-6	-85.7%				1				
	林業	43	50	-7	-14.0%	18	4	2	2	9	1	7	
畜産水産業	畜産業	27	29	-2	-6.9%	7		4	7	3		6	
	水産業	14	12	2	16.7%		2	2			4	6	
商業	小売業	87 (9)	96 (14)	-9	-9.4%	37	5	4	26	4	5	6	
	その他の商業	21 (3)	37	-16	-43.2%	7	2	1	9	1		1	
通信業	19 (8)	26 (13)	-7	-26.9%	10	1	1	2	1	1	3		
保健衛生業	社会福祉施設	43 (2)	68 (6)	-25	-36.8%	12	2	3	12	8	5	1	
	その他の保健衛生業	16	14	2	14.3%	9		1	4	1		1	
接客娯楽業	旅館業	15 (1)	12 (1)	3	25.0%	5	2	1	5	1		1	
	飲食店	25	25 (1)	0	0.0%	17	2		2	3		1	
	その他の接客娯楽業	15	7 (1)	8	114.3%	9		2	2		1	1	
その他	ビルメンテナンス業	23	29 (4)	-6	-20.7%	11	2	3	6			1	
	その他（上記以外の業種）	67 (10)	96 (12)	-29	-30.2%	24	6	5	16	4	4	8	
合計	984 (57)	⑳ 1,115 (85)	-131	-11.7%	340	70	63	229	110	72	100		
(注) 平成27年10月末の速報値である。						前年同期	366	105	65	259	139	79	102
数字は死亡者数（内数）、（ ）数字は交通労働災害（内数）である。						増減数	-26	-35	-2	-30	-29	-7	-2
						増減率	-7.1%	-33.3%	-3.1%	-11.6%	-20.9%	-8.9%	-2.0%

【表2】

平成27年 死亡災害発生状況 (10月31日 現在)

岩手労働局

番号	署別	業種	発生日	曜日	性別	年齢 (経験期間)	事故の型	起因物	災害発生の概要	発注者
1	花巻	商業 (その他の卸売業)	1月	水	女	40歳代 (1年以上 10年未満)	交通事故 (道路)	トラック	社用車で東北自動車道を走行中、スリップ事故により中央分離帯に衝突し、追い越し車線で停車していたところに後続の大型トラックが追突した。	
2	一関	建設業 (木造家屋建築工事業)	1月	土	男	50歳代 (30年以上 40年未満)	その他	その他の起因物	工事現場で、木材加工中、携帯用丸のこ盤で左示指を切断し療養していたが、32日後に破傷風のため死亡した。	民間
3	一関	運輸交通業 (一般貨物自動車運送業)	2月	金	男	60歳代 (1年未満)	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、バイク	社用車で新東名高速道路を走行中トラックに追突した。	
4	釜石	建設業 (港湾海岸工事業)	2月	日	男	40歳代 (10年以上 20年未満)	有害物等 との接触	異常環境等	潜水し水深約18mで捨石を均す作業中、潜水から約10分後に異常を訴え水面に浮上したが、塞栓症により死亡した。	国
5	盛岡	建設業 (河川土木工事業)	3月	水	男	60歳代 (30年以上 40年未満)	崩壊、倒壊	その他の仮設物、 建築物、構築物等	現場事務所前の除雪作業中、プレハブの資材小屋(3.5×1.8×2.5m)が突風で倒れ、下敷きになった。	地方公
6	宮古	建設業 (トンネル建設工事業)	4月	水	男	60歳代 (30年以上 40年未満)	崩壊、倒壊	地山、岩石	トンネル切羽において、火薬の装填作業中、肌落ちが発生し、落下した雷管を回収するため切羽に近づいたところ、岩盤が大規模に崩落し、下敷きになった。	国
7	花巻	製造業 (その他の食料品製造業)	4月	土	男	60歳代 (1年未満)	転倒	通路	キャベツの芯取り作業中に転倒し、床に頭部を打ち頭蓋骨骨折で入院、5日後に死亡した。	
8	花巻	運輸交通業 (一般貨物自動車運送業)	5月	金	男	60歳代 (20年以上 30年未満)	交通事故 (道路)	トラック	花巻市の事業場所属のトラックが国道を走行中センターラインをはみ出し、八戸市の事業場所属のトラックと正面衝突し、双方の運転手が死亡した。	
9	花巻	その他 (その他の事業)	5月	金	女	30歳代 (1年以上 10年未満)	その他	起因物なし	水道の検針業務のため、加害者の自宅に赴いたところ、加害者自宅内に引き込まれ絞殺された。	
10	花巻	建設業 (その他の土木工事業)	6月	月	男	60歳代 (1年以上 10年未満)	激突され	立木等	杉の木(胸高直径38cm、高さ15m)の伐倒方向を制御するために木材グラップル機のかみ装置を地上4.4mのところ添えながらチェーンソーで伐木したところ、切断部が暴れ、伐木に激突された。	民間

番号	署別	業種	発生日	曜日	性別	年齢 (経験期間)	事故の型	起因物	災害発生の概要	発注者
11	大船渡	製造業 (セメント・同製品製造業)	8月	金	男	50歳代 (1年未満)	はさまれ、 巻き込まれ	トラック	建設工事現場においてミキサー車を誘導し、停車させた後に体調不良となり、ミキサー車前方の日陰に座り込んでいたところ、運転手が被災者に気付かず発車したため、当該ミキサー車に轢かれた。	
12	二戸	農林業 (木材伐出業)	8月	火	男	60歳代 (40年以上 50年未満)	飛来、落下	立木等	杉の木(胸高直径23cm、高さ13m)をチェーンソーで伐倒した際、引っ掛かっていた松の枯れ枝(長さ3m)が被災者の頭部に落下した。	
13	盛岡	その他 (その他の事業)	9月	土	男	60歳代 (1年未満)	墜落、転落	階段、棧橋	見回り中に階段で転落し、踊り場で倒れているのを発見され病院に搬送されたが、同日脳挫傷により死亡した。	
14	二戸	建設業 (道路建設工事業)	9月	水	男	60歳代 (1年以上 10年未満)	はさまれ、 巻き込まれ	掘削用機械	砕石の敷均し作業中、ドラグショベルを後進させたところ、後方で作業していた被災者を轢いた。	地方公
15	釜石	清掃・と畜業 (ビルメンテナンス業)	9月	水	男	40歳代 (1年以上 10年未満)	はさまれ、 巻き込まれ	乗用車、 バス、バイク	病院敷地内の道路上でマンホール蓋ののぞき窓から流量計の検針をしていた際、バスに轢かれた。10月10日、脳挫傷で死亡した。	
16	盛岡	農林業 (木材伐出業)	10月	土	男	50歳代 (10年以上 20年未満)	墜落、転落	伐木等機械	木材を集材車に積み込むため、グラップルで木材をつかみ上げ旋回させたところ、検材中の被災者が木材を抱きかかえたまま木材とともに空中を旋回した。グラップルの運転者が気付いて旋回を止めたところ、地面に落下した。	

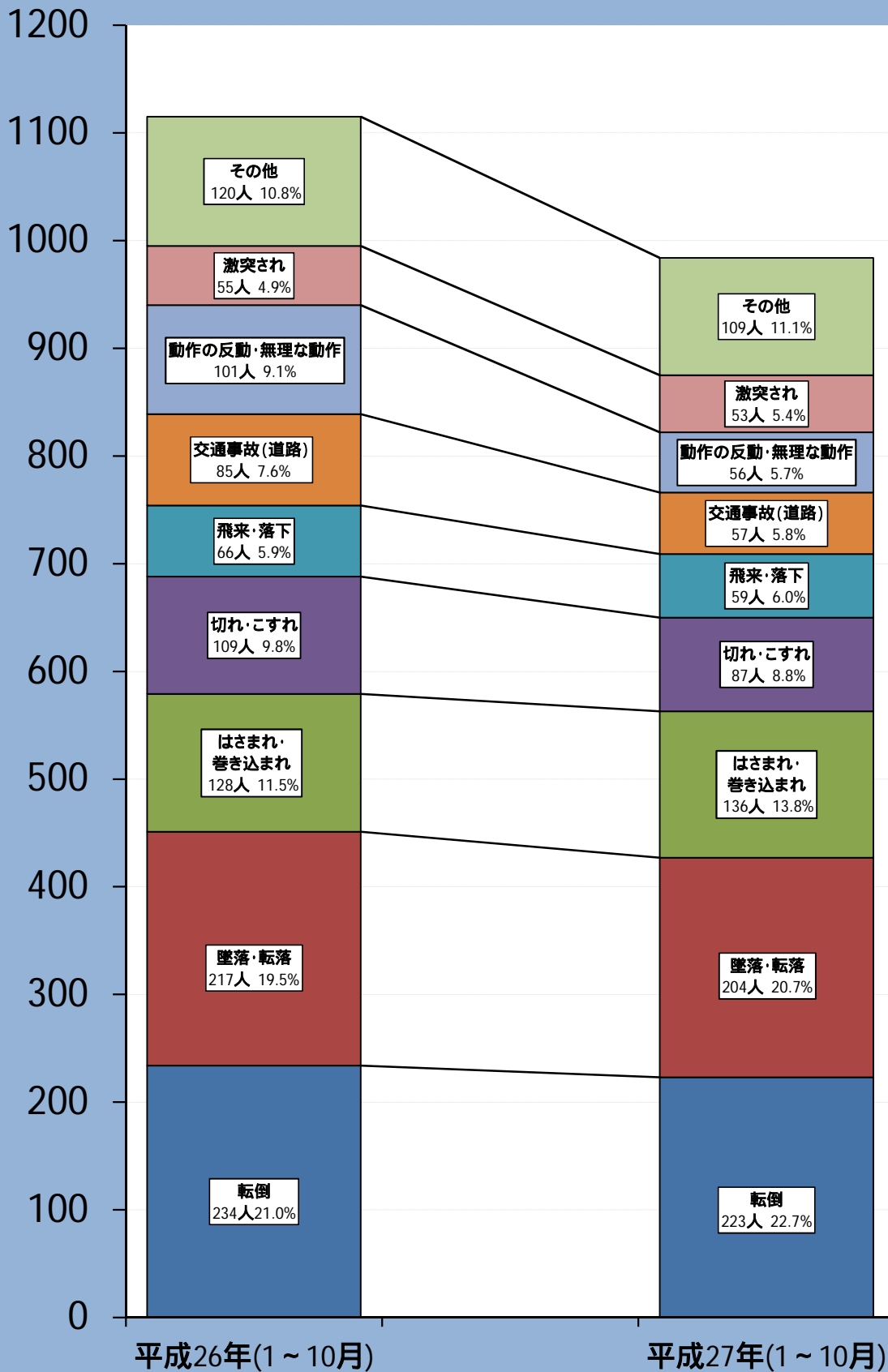
【表3】

10月31日 現在

業種別	製造業 2人	鉱業 0人	建設業 6人	運輸 交通業 2人	林業 2人	商業 1人	左記 以外 3人	16人 (前年同期23人)
	(2人)	(0人)	(8人)	(4人)	(0人)	(4人)	(5人)	
監督署別	盛岡 3人	宮古 1人	釜石 2人	花巻 5人	一関 2人	大船渡 1人	二戸 2人	
	(7人)	(6人)	(3人)	(4人)	(1人)	(2人)	(0人)	
事故の型別	墜落・ 転落 2人	転倒 1人	飛来・ 落下 1人	崩壊・ 倒壊 2人	激突 され 1人	はさまれ・ 巻き込まれ 3人	切れ・ こすれ 0人	
	(8人)	(0人)	(1人)	(1人)	(3人)	(3人)	(0人)	
	おぼれ 0人	高温の物 との接触 0人	激突 0人	感電 0人	有害物等 との接触 1人	交通事故 3人	その他 2人	
	(0人)	(0人)	(1人)	(1人)	(0人)	(5人)	(0人)	

注：()内は前年同期

事故の型別労働災害発生状況



【参考】

平成27年

月別労働災害発生状況

(休業4日以上)の死傷者数

岩手労働局

業種		27年計	26年	増減数	増減率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
製造業	水産食料品	23	24	-1	-4.2%	2		3	5	4	1	3		3	2			
	上記以外の食料品	76	62	14	22.6%	13	7	10	① 12	3	6	7	8	6	4			
	繊維・衣服その他繊維製品	6	10	-4	-40.0%	1			1		2		1		1			
	木材・木製品、家具・装備品	32	36	-4	-11.1%	1	6	3	3	2	6	3	6	1	1			
	パルプ・紙、印刷・製本	3	7	-4	-57.1%	1				1					1			
	化学工業	10	11	-1	-9.1%		1	1	3		2	1	1		1			
	窯業土石製品	11	16	-5	-31.3%	1	3	2		1	1	2	1					
	鉄鋼業、非鉄金属	3	10	-7	-70.0%			1			2							
	金属製品	19	23	-4	-17.4%	1	3		4	2	1	2	3	1	2			
	一般機械器具	12	11	1	9.1%		2	4		2		1	1	1	1			
	電気機械器具	11	8	3	37.5%		4		2		2	1	1	1				
	輸送用機械製造	5	6	-1	-16.7%		1	1				1	1	1				
	電気・ガス	0	0	0														
	その他の製造業	18	20	-2	-10.0%	3	2	1	2	2	1	2	2	1	2			
小計	229	244	-15	-6.1%	23	29	26	① 32	17	24	23	25	15	15				
鉱業	4	5	-1	-20.0%	2		1	1										
建設業	土木工事	67	76	-9	-11.8%	4	10	① 5	① 5	7	9	4	9	7	7			
	建築工事	鉄骨・鉄筋家屋	21	22	-1	-4.5%	1	2	1		1	3	5	3	3	2		
		木造家屋	49	57	-8	-14.0%	4	3	3	9	10	7	3	7	1	2		
		その他の建築工事	51	36	15	41.7%	2	3	6	5	9	9	9	2	3	3		
	その他の建設	24	38	-14	-36.8%	1	3	3	3	1	2	2	5	2	2			
小計	212	229	-17	-7.4%	① 12	① 21	① 18	① 22	28	30	23	26	16	16				
運輸交通業	道路貨物運送業	110	106	4	3.8%	13	① 12	8	15	① 6	8	13	14	13	8			
	その他の運輸交通業	11	22	-11	-50.0%	4	2			1		1	2	1				
貨物取扱	2	1	1	100.0%		1						1						
農林業	農業	1	7	-6	-85.7%						1							
	林業	43	50	-7	-14.0%	4	4	2	7	6	3	3	5	4	5			
畜産水産業	畜産業	27	29	-2	-6.9%	2	3	5	3	3	2	4	3	2				
	水産業	14	12	2	16.7%	3	1	2		1		3		1	3			
商業	小売業	87	96	-9	-9.4%	13	7	12	10	13	7	7	7	8	3			
	その他の商業	21	37	-16	-43.2%	4	2	2	1	2	4		3	1	2			
通信業	19	26	-7	-26.9%	3	4	1	1	1	3	3	2		1				
保健衛生業	社会福祉施設	43	68	-25	-36.8%	7	7	5	8	4	2	2	2	6				
	その他の保健衛生業	16	14	2	14.3%	4	4		1	1	1	1	2	1	1			
接客娯楽業	旅館業	15	12	3	25.0%	3	2	3	1	3	1	1						
	飲食店	25	25	0	0.0%	3	3	7	1	2	2	1	2	1	3			
	その他の接客娯楽業	15	7	8	114.3%	3	4	1	2	1	1	1	1	1				
その他	ビルメンテナンス業	23	29	-6	-20.7%	1	1	3		8	2	3	1	2	2			
	その他(上記以外の業種)	67	96	-29	-30.2%	5	9	4	11	4	5	9	8	6	6			
合計	984	② 1,115	-131	-11.7%	② 109	116	① 100	116	101	96	98	105	78	65				

(注)平成27年10月末の速報値である。

数字は死亡者数(内数)である。

いわて年末年始無災害運動

安全・安心・家族の笑顔
願いはひとつ 年末年始も無災害

実施期間：平成27年12月1日～平成28年1月31日

準備期間：平成27年11月1日～平成27年11月30日

平成26年の岩手県内における労働災害による休業4日以上¹の死傷者数は、前年比の増加率で1.4%と、それ以前に前年比の増加率が6%台で推移していた状況に比べ、改善は見られたものの5年連続労働災害が増加するという結果となりました。

平成27年度は、労働災害防止対策の最重点として、「安全決意宣言」、「転倒災害防止」、「交通労働災害防止対策」に取り組んだ結果、平成27年上半期の労働災害は約9%の減少となりました。しかし、震災復旧・復興工事の本格化などの要因により、県内の経済活動が活発化しており、このような状況の中、これから年末年始の慌ただしい時期を迎え、寒冷な季節の凍結、積雪等の自然要因も加わることにより、労働災害が多発し、増加に転じかねない懸念があります。

特に、本県の場合は、凍結路面での転倒など冬季特有の労働災害の死傷者数が、毎年、年間の全死傷者数の1割から2割近くを占めており、冬季における労働災害防止に一層の取組を推進する必要があります。

このため、「平成27年度いわて年末年始無災害運動」は、平成26年までの5年連続の災害増加をストップさせ、平成28年の大幅な労働災害の減少を達成するための重要な取組と位置付け、準備期間を含めて、各労働災害防止団体が実施する年末年始無災害運動と連動して運動を強力に展開するとともに、労働災害の根絶に向けた取組を強力に推進いたします。

主唱者 岩手労働局／岩手労働災害防止団体連絡協議会

協議会構成団体：(公財)岩手労働基準協会／建設業労働災害防止協会岩手県支部／陸上貨物運送事業労働災害防止協会岩手県支部／林業・木材製造業労働災害防止協会岩手県支部／港湾貨物運送事業労働災害防止協会東北総支部岩手支部／(一社)日本砕石協会岩手県支部／(一社)日本ボイラ協会岩手支部／(公社)ボイラ・クレーン安全協会岩手事務所／(公財)岩手県予防医学協会／(公社)建設荷役車両安全技術協会岩手県支部／岩手県陸砂利工業組合／(独)労働者健康福祉機構岩手産業保健総合支援センター

協賛 岩手県商工会議所連合会／岩手県商工会連合会／岩手県木造家屋等低層住宅建築工事安全対策協議会

寒さや雪による冬季特有災害を防止しよう!

1 積雪・凍結による転倒災害、墜落災害の防止

- (1) 通路・作業箇所の積雪・凍結防止のための囲い・除雪・融雪措置の徹底。
- (2) 工事現場の外部足場の雪の吹き込み防止のためのネットの設置。
- (3) 滑り難い靴等の着用徹底。

2 車両等のスリップ事故等の防止

- (1) 速度控えめ、早めブレーキの徹底、急ハンドル・急ブレーキ回避の徹底。
- (2) 橋上・トンネル出入口・日陰部分等の速度控えめの徹底。
- (3) 「交通労働災害防止ガイドライン」の励行。

3 雪降ろしの際の災害防止

- (1) 作業開始前の腰痛予防体操の励行。
- (2) 安全服装（滑り難い靴・安全带・ヘルメット等）の徹底。
- (3) 軒先の立入禁止の徹底、軒先のせり出し雪は地上から除去。

4 一酸化炭素中毒の防止

- (1) 屋内でストーブ、内燃機関等の使用の際の定期的な換気の徹底。屋内、密閉された場所では練炭の使用を避けること。
- (2) 工事現場における練炭によるコンクリート養生は、原則避けること。
やむをえず練炭を使用する場合は、一酸化炭素中毒の予防について十分な知識を有する作業指揮者を定め、作業指揮、練炭養生場所の立入禁止表示、立入る場合の換気徹底と一酸化炭素濃度の測定確認を行うこと。

5 火災・火傷の防止

- (1) 薪ストーブ・焚き火等の着火の際のガソリン・軽油・灯油等の使用禁止。
- (2) ガソリン等の油脂類・可燃物の火気厳禁保管の徹底。
- (3) 寄宿舍、事業場、工事現場、現場事務所における火気取締責任者の選任、油脂類・可燃物の適切な保管、留守の際の消火確認、作業終了時・就寝時の火気の点検の徹底。

6 凍結の緩みによる土砂崩壊災害等の防止

- (1) 凍結・融解の繰り返しによる地山の崩壊・転石の発生による災害防止対策のため、地山掘削作業の際の土止め支保工の設置、地肌露出箇所の点検・こそくの徹底、安全通路の設置の徹底。
- (2) 融雪・鉄砲水災害防止のため、作業箇所周辺、上流の雪・融水等の状態の事前調査と調査結果に基づき、作業中止、雪・融水等の除去等、適切な措置の徹底。

7 作業時の保温・体操の実施

- (1) 作業場内の気温調整、防寒衣の着用等による保温の徹底。
- (2) 作業開始前及び作業の合間の筋肉をほぐす体操の励行。

8 「安全決意宣言」・「リスクアセスメント」の実施等の安全意識高揚

9 その他

- (1) 積雪・強風によるハウス等の転倒・倒壊防止。
- (2) 雪崩による危険防止。
- (3) 吹雪・濃霧による遭難防止対策の徹底。

冬季の転倒災害を防止しよう!
（「STOP! 転倒災害防止プロジェクト2015」の推進）

こんな場所等は滑りやすいので注意が必要!!

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 人や車の出入りの多い通路や出入口付近 | <input type="checkbox"/> 階段・段差や傾斜のある通路 |
| <input type="checkbox"/> 雪道を歩いた後にタイル張りの事務所等に入る時 | <input type="checkbox"/> 除雪中や車の乗り降りの際 |

転倒災害にあわないために!

- 通路や作業箇所について、囲い・除雪・融雪に努めましょう。
- 工事現場の外部足場には、ネットやシートを設置し、足場の積雪・凍結を防止しましょう。
- 滑止材入り、ピン・金具付き・溝の深いもの等滑り難い履物を着用しましょう。
- 小さな歩幅で、靴の裏全体をつけ、時間に余裕を持って「急がず、ゆっくり」歩きを励行しましょう。
- 手袋の着用、両手をふさがない工夫・作業方法の選択をしましょう。